



勝訴を喜ぶ原告団

判決は、北韓政府が事実と異なる情報を流布して、原告を誤信させた上で北韓への渡航を法断させ、渡航後は自由な出国を認めず、過酷な環境下で長期間の生活を余儀なされた」と指摘。一連の行為について「継続的不法行為が成立する」と判断した。野獣裁判では、「原告は被害者として人生の大半を奪われたといっても過言ではなく、精神的、肉体的苦痛は甚大」と述べた。

北に述べた。北は1959年から1984年までの25年間にわたって実施され、約9万3000日本人の妻らに同胞や日本人の妻らに渡った。原告らは、北韓で強制労働や監視下での生活や過酷な状況を強いられ、人権を著しく侵害されたとして、2018年北韓政府を相手取り、1人あたり1億圓、

「地上の樂園」という美辭麗句で在任同胞を騙し、北韓に送還した「北送運動」で被った人権侵害に対し、脱北者や遺族4人が北韓政府を相手取り、人権侵害による損害賠償を求めた訴訟の差し戻し審判決が1月26日、東京地裁で三行渡された。判決で東京地裁は「北韓政府による継続的な不法行為を認し」、原告4人に対し計880万円の支払いを命じた。北送事業をめぐる、日本の裁判所が北韓政府に損害賠償を命じたのは初めて。

差し戻し審
東京地裁判決

北送は人権侵害

北韓に8800万円賠償命令

県職員の国籍要件復活 三重知事に「検討撤回を」

民団中央・人権擁護委・三重本部が要望書



要望書を手渡す三重県本部の洪光子団長(中)

一見知事にあてた今回の要望書で民団は、三重県が1999年度以降に採用した外国籍職員は、

県内市長も「不都合ない」

中央本部（金利局長）と中央人権擁護委員会（趙龍済委員長）、三重県本部（洪光子局長は1月27日、三重県庁を訪れ、見勝之知事が昨年12月24日に、県職員採用に際し、国籍要求を復活させ、外国人採用を取やめる方向で検討する」と打ち出したこと）に対し、検討そのものを撤する（す）を強く求める要望書を連名で提出した。民団は、1970年代以降、権益擁護運動を全国的に展開し、地方公務員採用時の国籍条項の撤廃を勝ち取ってきた経緯がある。この度、三重県が検討すること、国籍要件の見直しは、多文化共生社会に逆するばかりでなく、民団がこれまで獲得してきた運動成果を無に帰さない動きと見られている。今年に入り地元自治体も、関係各方面から撤回を求める声が相次いでおり、三重県の動向に注目が集まっている。

「多文化共生に逆行」

MINDAN
新聞

在日本大韓国民団 機関紙
民団新聞社 発行人 金利中
発行所: 〒106-8585 東京都港区南麻布1-7-32
TEL 03(3546)6375 FAX 03(5419)7555
郵便振替口座 00160-652652
ソウル事務所: 〒04538 ソウル特別市中区明洞3ギル6
開洋ビル16階1603号
TEL 02(734)1164 FAX 02(734)1185

在日本大韓民國民團綱領

一、우리는 大韓民國의 國人을 現狀을 期한다.
一、우리는 在日同胞의 人權을 擁護發展期한다.
一、우리는 在日同胞의 經濟發展期한다.
一、우리는 在日同胞의 社會發達期한다.
一、우리는 世界平和의 國際會議을 期한다.

購読および広告掲載の申込み・お問い合わせ
TEL 03(3454)6375 FAX 03(5419)7555
公式サイト・スマホでも民団新聞が閲覧できます

公式サイト mindan.org
電子紙面 mindan.org/news/pdf.php



懇談会に出席した李在明大統領
(左から2人目)

李大統領、関西の同胞と懇談

【余見】李在明大統領は11日、奈良県で開かれ関西同郷懇談会に出席し、「在日同胞の皆さんの犠牲と献身は胸を打つものがある。本国の大韓民国国民も、皆さんの切実を尊い献身を決して忘れない」と述べた。懇談会には、民団をはじめ、同胞団体、市民団体、経済、文化関係者、次世代代表者約700人が出席した。

李大統領は「異国の地で数々の困難を乗り越えながら、帯祖国を思い支援を惜まなかった在日同胞の話に触れたら、身がうずき縮まる思い

胞と懇談

がする」と語った。

また、在日同胞が査驗してきた歴史的経緯にも言及し、「解放後も祖国が分断されたこと、再び日本に渡らざるを得なかった痛ましい歴史や、独裁政権下で在外国民をラバイに仕立てて搾取された事件も決して忘れてはならない歴史だと強調した。

李大統領はさらに、「本日、この場には済州４・３事件の犠牲者遺族、ワトク地区の住民の方々も参加している」と承知している」と述べ、「大韓民国の不幸な歴史の中で被害を受け、傷を負った当事者およびご遺族の皆さんに、改めて謝罪とお見舞いの言葉を申し上げる」と述べた。

李大統領は、大阪総領事館についても「在日同

胞壮士の献身と祖国愛を象徴する空閑だと述べ、「同胞の皆さんは、１９８０年の皆さんは、１９ＭＦ通関危機の時も、歴史的な目ざとくに率先して支援手を差し伸べてくださった」と語った。

また、民団大阪本部の金明団長があいさつで立上り、「韓日関係が再び対立や葛藤の時代へと逆戻りしてはならない」と訴えた。

身元確認へ実務協議

長生炭鋤 韓日首脳が合意

一方、李在明大統領は、高市早苗首相の首脳会談後の共同記者発表で、「文民史の正統版におおいて、韓日両国が協力の深みを増し、その範囲を広げていくことは、もはや先送りでできない時代的課題だ」と述べた。

李大統領は「貿易中心の協力を超え、経済安全保障や科学技術、国際

規範を共に形成していくための、より包括的な協力が必要である」との認識で一致した」と述べ、そのために「関係当局間の協議を開始することで合意した」と明らかにした。

1942年に山口県宇部市で発生した長生炭鉱事故に関連しては、「両国は犠牲者遺骨の身元確認に向け、DNA鑑定を

一連の歴史問題において、小さいながらも意味のある前進を遂げた」と喜んでいる、非常に意義深い」と評価した。

高市首相も「山口県宇部市の長生炭鉱にて発見された遺骨に関連しては、DNA鑑定についての協力の方向に、日韓間の調整が進展していることを歓迎する」と述べた。

推進すること、具体的な事項については、局間の実務協議を進めることとで合意した」と述べ、「過去への歴史問題において、小さなながらも意味のある前進を遂げたと考えており、非常に意義深し」と評価した。

高市首相も「山口県宇部市の長生炭鉱には発見された遺骨に因って、DNA鑑定についての協力に向け、日韓の調整が進展していることを歓迎する」と述べた。

日本政府に働きかける 追悼集会で中央団長

追悼集会で中央団長



金利中団中央本部団長は「犠牲者の尊厳回復、真相究明、遺骨収集の実現を訴え、日本政府の歴史的責任と人道的責務を果たすよう求めていく」と強調した。

集会の最後には遺族たちによるチエサ（韓国法事）が行われた後、参列者の献花がなされた。写真。

<p>【山口】日本の植民地支配下の1942年2月、朝鮮人労働者136人を含む183人の犠牲者を出した山口県宇部市の海底炭鉱、長生炭鉱の水没事故84周年犠牲者追悼集会が7日、現地で開催された。（一社）長生炭鉱の水非常を初む（刻む）会と井上洋子代表理事）が主催し、韓日の遺族や市民、韓国政府の担当者や韓日議員連盟の議員ら約800人が列した。韓国政府は今年1月の首脳談話で遺骨のDNA鑑定に協力する方針で一致しており、身元判別の期待が高まっている。</p>	<p>は、追悼集会をきっかけに運動と世論が広がっていき、日本政府も動くと思つた。今後も支援していきたい」と語った。</p>
<p>「刻む会」の井上代表は「今年こそ両国の遺族に遺骨をお渡したい」と話し、また韓国遺族会の楊玄会長は歴史的事象を</p>	<p>8月の潜水調査では初めて人骨4点が回収された。今月6日の調査でも頭蓋骨など5点が引き揚げられ</p>

民主統諮問會議
首脳副義長の
問先のベトナム・ホーチ
ミン市で死去した。73歳
か、国會議員を7期務め

李海瓚氏死

李首席副議長は民主平鎮の1人で、李在明大統領。「共に民主党」の重

民主派と統一諮問会議の
の首相副議長で元首相の
李海瓊氏が1月25日、訪

和統 諮問会議のベトナム
運営協議会のため訪問
していたホーチミン市で
23日に倒れ、現地の病院
に搬送された。心筋梗塞
と診断され手術を受けた
が、回復しなかった。

議長である金利和民団中
央本部団長が吊問した。

李海瓊氏

和統 諮問会議のベトナム
運営協議会のため訪問
していたホーチミン市で
23日に倒れ、現地の病院
に搬送された。心筋梗塞
と診断され手術を受けた
が、回復しなかった。

議長である金利和民団中
央本部団長が吊問した。

李海瓊氏

アスリーキャンバスグループ コンセプト

Go Beyond.

50周年を迎え株式会社三公商事は新たな一歩を踏み出します。

フィットネス事業で「健康」を、カフェ事業で「つながり」を、
そしてパチンコ事業で「楽しみ」を提供します。

この3つ(three)の事業を1つ(A)の共同体として一緒に価値観を持って進み
お客様の人生(canvas)を色鮮やかに染める「幸福創造企業」を目指します。

株式会社 ATHREE CANVAS

アスリーキャンバス

取締役会長 **呉 公太**

長野県岡谷市長地権現町 4-4-1 TEL.0266-28-6631

れた。

在日韓人歴史資料館
在日韓人歴史資料館は、在日韓同胞の歴史を歴史館として、貴重な資料の収集・保存、調査、研究を行う。内外から多くの方々が入場者、来訪し観覧する。延べ20万人となり、各町を巡りセミナーも定期的に開催されている。

2025年は、在日韓人歴史資料館がオプンソブジウムとなり、11月29日に「開館20周年記念ソブジウム」を中央図書館で開催した。また20周年を記念して『写真に見る在日コリアンの100年』の第2版を発行した。

※各局の2025年年度活動報告の詳細については、以下の頁に記載しています。

この1年間、諸般の事業を推進してきたことを、ここに報告いたします。

